

心とからだを養う体験農園づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

- 三沢区は4年半前から耕作放棄地を活用して、家庭菜園の畑を貸出したり、共同で稲作、野菜栽培、炭焼き、山羊の飼育、農産物直売所開設などを手がけたり、退職者や子供たちに農業体験の機会を提供し、環境保全や地産地消の流れをつくってきた。
- こうした活動を通じて、自然の中で行う農作業は、気持ちのよい作業が多く、家族や社会の中で問題や障害をかかえて悩む人たちの癒しとなる効果が期待できることに気づき、初心者でも農業体験ができる場を整備し、心身の養生を目的とした活動に着手した。
- 児童養護施設の小学生、支援を必要とする障害のある子供たち、都会の就農希望の大学生などを対象に、若者の就農支援も視野に入れた「農業体験教室」を展開し、さらに、あまり前例のない農業と福祉の連携活動に対して、一人でも多くの住民の理解や協力を得られるように啓発活動にも力を注いだ。

事業内容

1 障害者等受入への啓発活動

区民農園の福祉的な活動を広く知ってもらうため、①10数か所に分散する圃場に看板を設置②活動内容がわかる「三沢区民農園地図」を作成・配布③区民農園の一カ所を福祉農園と位置づけ、雨や日差しを避けられるように、手作りで仮設の休憩小屋を設置した。

2 農業体験教室の開催

農業体験の場と機会の提供するために、農作業の年間スケジュールに沿って、毎月1回程度の農業体験教室を区民農園の圃場にて開催した。4月（稲苗播種・ふせこみ）、6月（田植え、サツマイモ植付、桑ぐみ収穫）、7月（ジャガイモ収穫）、9月（稲刈り）、10月（サツマイモ収穫）、11月（そば打ち・収穫祭）。



【農業体験教室(サツマイモ植え付け)】

事業効果

- 多様な農作業体験の場を提供することにより、普段農業に接する機会の少ない参加者が農業を体験して、将来の就農に向けて、農業と自分との相性・適性を知ることができるようになることを期待した。
- 目に見える具体的な効果としては、(1) 休憩小屋1ヶ所、看板10枚作成、区民農園地図1000部作成・配布、(2) 農業体験教室への参加者は子供・障害者・若者（のべ140人）、区民農園の活動ボランティア参加者（のべ180人）

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 農業体験教室では、地元の元農業普及指導員が講師をつとめ、作業や作物の特徴など子供が興味をひく話題を提供した。福祉農園において、おでかけクラブの農園づくりに場所と技術指導を提供した。
- 農作物に関する書籍として絵本『そだててあそうぼう』（農文協）53冊を購入し、誰でも閲覧できるように区民農園直売所に置いて公開した。直売所開催日に、区民からの栽培に関する相談にも応じた。
- 区民農園での栽培について通常の育成管理は区民農園委員会のメンバーが担当した。栽培した農産物は、農業体験教室の参加者が自ら味わうという自給的な生産が基本だが、収穫物の一部を、区民農園直売所で販売して事業収入に当てたり、児童養護施設に寄付したりした。

【選定のポイント】

農業と福祉の連携により、心とからだの養生や障害者、若者の就農支援につながることを期待される。

団体名 岡谷市三沢区 連絡先 0266-23-0663	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 737,282円 486,000円
--------------------------------	----------------------	-------------------------------